

多様性に関すること

職場などにおける多宗教に
配慮したスペースの
提供について1



雇用主、不動産所有者/管理者、施設管理者、
建築士、建築デザイナー、管理技士、
およびインテリアデザイナーの方々向けの
ベストプラクティス多信仰ルームデザインガイド

WuduMate®



コンパクト



モバイル



クラシック



モジュラー



謝辞及び参考文献

多様性に関することの作成にあたり、貴重なアドバイスやガイダンスを提供して下さった以下の方々、団体に心から感謝申し上げます（敬称略、順不同）：

- ロンドン リージェンツ・パーク・モスク
- B. P. コリンズ弁護士事務所による法的アドバイス

また、アドバイスやガイダンスに加え、以下の方々からもご賛同をいただきました：

- ハウンズロー モスクのモハメッド・M・ライ（故人）
- ステップニー司教 スティーブン・オリバー（英国国教会）
- ヒンズー教寺院の聖職者ナレシュ・サラスワット
- HM監獄局ユダヤ教信仰アドバイザーに就任されているマイケル・ビンストック
- レオ・ベック・カレッジ副校長のラビであるマイケル・シャイア

多様性に関する事項の国際的な適用性

大英帝国時代の英国の国際的な進出の歴史は十分に知られていますが、これが今日の英国が多民族社会となっている大きな要因です。

英国は、職場における多様性の受容という点では、おそらく世界で最も進んだ国であると言えるでしょうが、他の先進国の多くも、安全衛生や職場における少数派民族の統合に英国と同様なアプローチを試みています。

このバージョンの「多様性問題」(V12 2021)は、主に英国で受け入れられている政策と英国の法律への言及に基づいて作成されていますが、その内容の多くは現在ではそうでなくても、ほぼ確実に将来的に他の国にも同様に適用されることでしょう。

目次

1. 多様性への挑戦
2. 組織が理解し始めた
3. 法規制の影響
4. 多教派信者への配慮
5. 祈禱室のデザイン
 - 5.1 ロケーション
 - 5.2 サイズ
 - 5.3 オリエンテーション
 - 5.3.1 靴の収納
 - 5.3.2 トイレ設備
 - 5.4 祈禱室の什器・備品について
 - 5.4.1 宗教的なアイコン
 - 5.4.2 家具
 - 5.4.3 床材
 - 5.4.4 宗教関係の書籍
 - 5.4.5 照明
 - 5.4.6 窓
 - 5.4.7 その他
 - 5.4.8 祈禱室
 - 5.4.9 表示などについて
 - 5.4.9.1 法に則った標識表示
 - 5.4.9.2 多宗教ルームとウドウルームの案内表示
6. 浄めの儀式について
 - 6.1 ウドゥー
 - 6.1.1 クリーンな「タヘル」ゾーンのコンセプト
 - 6.1.2 洗面所でのウドゥ
 - 6.1.3 水について
 - 6.1.4 WuduMate®
 - 6.1.5 障がい者への対応
 - 6.1.6 サーモスタティックウォーターミキサーの使用について
 - 6.1.7 水栓金具と節水について
 - 6.1.7.1 センサー付きの蛇口
 - 6.1.7.2 手動操作の蛇口
 - 6.1.7.3 タイマー付き蛇口
 - 6.1.7.4 単水源水栓
 - 6.1.7.5 インラインフィルター
 - 6.1.7.6 節水について
 - 6.1.7.6.1 エアレーター
 - 6.1.8 床
 - 6.1.9 マット
 - 6.1.10 壁
 - 6.1.11 乾燥設備
 - 6.1.12 足ふき
 - 6.1.13 廃棄物処理
 - 6.1.14 石鹸
 - 6.2 個人用ビデ
 - 6.2.1 ビデ
 - 6.2.2 職場での個人用ビデの使用
 - 6.2.2.1 ドウシズ
 - 6.2.2.2 ビデ付きトイレ
 - 6.2.2.3 ビデー体型
 - 6.2.2.4 パーソナルビデ
 - 6.2.2.5 パーソナルビデ販売機
 7. 社外イベントでの祈りとウドウの設備について
 - 7.1 携帯用ウドウ設備
 8. 祈禱室の利用状況
 - 8.1 法について
 - 8.2 メンテナンスとクリーニング
 - 8.3 開館時間
 9. 多宗教ルームのデザインについて
 10. 施工例

1.多様性への課題

世界中で多文化・多民族化が進んでいます。私たちの職場、病院、大学や学校でも、多文化が進んでいます。スタッフ、患者、学生、来訪者が、さまざまな文化的背景や信仰を持つことが予想され、そのような人々に対応しなければなりません。このような多様性は、雇用主、不動産所有者、管理者及び施設管理者、建築家やインテリアデザイナーなど、さまざまな人々に課題を提起しています。これらの課題の中でも特に重要なのは社会的責任を認識するための道徳的な義務であり、これはますます重要になってきています。これまで雇用主のみに適用されていたこれらの義務を公的機関や民間団体に商品、施設、サービスを提供するすべての事業者にまで拡大する法律が増えつつあります。英国では、英国産業連盟（The Confederation of British Industry）が次のように指摘しています：

- 「雇用主は多様性と包括性に関する方針政策のメリットを認識しており、ビジネスコミュニティはこの方針への積極的な行動を支持しています。
- 今日の知識集約型経済において、持続的な競争優位をもたらす唯一の資源は個人のスキル、理解、経験です。雇用における差別は、それが存在することにより、努力やアイデア、ひいてはビジネスの売上への損失につながります。潜在能力の浪費、労働力の浪費、収益の浪費となるのです。
- 多様性という一般的なテーマに関する情報には事欠きませんが、私たちの職場や勉強の場、そして病院やその他の公共施設などの場所でそれが何を意味するかについての実践的な指針には欠けています。典型的なグレーションは以下の通りです：
- スタッフやビジターのために作られた規定を考慮するとき、私たちが取り組むべき多様性の日常的な影響とは何でしょうか？
- 新しい建物に多様性の需要をどのように「デザインイン」できるでしょうか？
- 既存の建物に、このような需要や期待をどのように反映させることができるのでしょうか？

このガイドは、このような情報ニーズに応ようとするものです。

管理責任者や多民族化が進む労働力に対する配慮義務を負う雇用主に対して、多宗教施設の提供に関する実践的な指針を示すことを目的としています。ほとんどの西側諸国は職場の多様性に関して英国の、より規範的な政策に追随しているようです。したがって、このガイドは他の国々が従う場合の適切な基準を提供するものとします。

2. 組織が理解しはじめた

雇用条件における平等宣言は、雇用者の法的義務を反映したものであり、一般的なものです。しかし、このような配慮の行き届いた人事政策は、単に法的義務を果たす必要性だけで推進されるべきではないでしょう。文化的に多様な従業員のニーズに積極的に対応することで、現実的かつ経済的な見返りを得ることができます。欠勤率や離職率の低下、士気や忠誠心の向上など、スタッフとの関係を改善することで目に見える成果が得られるかも知れません。

ジム、社員食堂、スタッフラウンジなどでは、すでに多くの大企業でこの宣言が実践された例として認められています。彼らはスタッフや訪問者の福利厚生を充実させることが、実用的かつ商業的に有益であると考えているからです。

また、さらにこれを向上をさせた企業もあります：

- ゲームや楽器を備えたレクリエーション施設
- スポーツ施設
- 洗練された「リラクゼーションルーム」

企業はスタッフの「物理的な」健康のための施設をより多く提供するようになってきていますが、多様な従業員やビジターの精神的なニーズについて同様に考慮している企業や公共サービス機関は多くはありません。

ストレスに満ちた現代社会では、職場に内省、瞑想、祈りのための静かな空間が必要であり、日中必要なときにそこに身を置くことができるようなスペースが祈りのために使用される場合には法律により、誰もが差別なく利用できるようにしなければなりません。異なる宗教の伝統に配慮し利用者に不快感を与えないような配慮が必要です。そのため、このような部屋は多宗教ルームあるいはクワイエットルームと呼ばれることもあります。

英国の最新の法律では宗教と信念を理由とする差別の定義に「信仰や信念の欠如」が含まれていますので、このような清潔で静かな空間の部屋を提供し信仰を持つ人が異なる扱いを受けることを避けることで、すべての人に利益をもたらすことができます。

ほとんどの病院では、スタッフ、患者、その親族、訪問者が利用できるさまざまな多宗教施設をすでに提供しています。このような施設は、個人的な苦しみや悩みがある場合には特に必要とされます。そのような状況下に置かれた人々が尊厳ある環境の中で一人の時間を過ごす機会は、肉体的にも精神的にも癒しのプロセスの重要な一部となり得るでしょう。

- 裁判所は静かな思索や祈りの時間を持つことで、ストレスを緩和できる場所です。さらにイスラム教を含むいくつかの宗教では、聖なる書物に誓いを立てる前に精神的な準備を必要とします。そのような準備には儀式的な沐浴が含まれる場合もあります。
- 刑務所や図書館など、国や地方を問わず多くの政府機関が多宗教施設を設置しています。一時期は使用されていない喫煙室を利用していましたが、現在ではそれもないので他にスペースを確保する必要があります。
- 空港では一般に、旅行者と職員の双方に祈りと儀式のための小浄施設が提供されています。
- 軍隊は兵舎や戦場の両方において、あらゆる宗教の信者の精神的なニーズに対応し、また訓練のためにこれらの施設を訪れる海外からのイスラム教徒の訪問者を受け入れるために、これらの施設を増やしています。
- 大学やカレッジは多文化への寛容と理解を奨励するリーダー的存在です。祈祷室、異なる信仰グループによる礼拝を提供するだけでなく交流と相互理解を促進しています。
- 大企業や多国籍企業の雇用主は、より信仰について意識するようになってきています。

3. 法規制の影響

民間・公共を問わず祈りや静かな瞑想のための施設を設けることは、それぞれの国で法律が定められています。祈祷室、多宗教の部屋、クワイエットルームなど、病院や大学、オフィス、空港などで、さまざまな建物に従業員や訪問者のためにこうした施設を設置するケースが増えています。EU諸国はこの分野で一定の統一性を持っていますが、加盟国は通常の場合EUからの指令に依存せず独自の規制を採用しています。そのため詳細な規定はEU加盟国ごとに異なることがあります。EU以外の国でも強制的な要求事項や非規定的なガイダンスの両方を導入する動きが活発化しています。このため、ご自身の国の法律上の要件や基準について、ご自分で確認されることをお勧めします。

4. 多宗教への対応

多くの国では雇用主は、すべての従業員が特定の宗教的慣習を実行できるよう可能な限りの対応をする法的義務を負っています。

しかし物理的・経済的な制約があるため、すべての主要な宗教に対応した施設を用意することは現実的ではありません。

そのため多宗教ルームが現実的で実現可能な解決策となります。宗教の種類や宗派は非常に多いため、完璧な多宗教ルームを実現するための唯一の方法は存在しません。多くの場合、どうしても妥協が必要になってしまいます。

このような妥協点は、すべての特定の信仰にとって「理想的」とは言えないかもしれませんが、スタッフや訪問者（学生、患者、受刑者などの一時的な訪問者、あるいは長期的な訪問者であるかを問わず）の宗教的ニーズを尊重し、それに対応するための組織による真剣で価値ある試みだと利用者に認識されるでしょう。

5. 多宗教のための祈祷室デザイン

5.1 ロケーション

信仰により、儀式の義務や遂行に対する考え方は異なります。

例えば、キリスト教では毎日の儀式を特に要求しませんが、イスラム教では一日に8回サラート（礼拝）を行うことが義務付けられています。そのためサラートをきちんと守るためには、必然的に通常の勤務時間帯内に礼拝が行われることになります。

それゆえに礼拝施設までの移動、祈祷、帰社時間など非生産的な時間を最小限に抑えることが合理的です。これは多宗教の部屋を近くに設置することで実現できます。トイレがビルの周囲に利便性を考慮して配置されているのと同じように、個々の仕事場にも信仰室を設置することにより解決します。理想的には複数棟のキャンパスには各棟に、複数階のオフィスには各階に信仰室を設けるべきで費用対効果の分析により、そのような配置が正当化されるかどうかは明確に示されるはずで

5.2 サイズ

祈祷室の広さは、一度に利用する人数に見合ったものでなければなりません。イスラム教徒は日の出と日の入りの時間帯に礼拝を行うため、その必要性は最も予測しやすいでしょう。さらにサラートもかなり決まった方式で行われます。またユダヤ教では1日に最低2回、夜明けと夕暮れ時に礼拝を行うことが決められています。しかしユダヤ教はより柔軟性があり、通常、朝早く出勤前に祈り、午後遅くまたは夕方早く出勤後に祈ることができます。

イスラム教のサラートの時間は一般的に決まっているため、祈祷室はイスラム教のスタッフ全員が一度に入れる広さが必要ですが、イスラム教のスタッフ全員が毎日サラートを行うとは限りません。

例えば、女性は生理中は祈りません。また、平日の祈りの時間は金曜日よりも融通が利きますので、イスラム教徒のスタッフが全員一緒に祈りの部屋にいることはまずないでしょう。ただし金曜日やイスラム教の重要な日（イード、ラマダン）には、集団でサラートを行うことが男性の義務とされています。

キリスト教や他の多くの宗教の信者は、毎日の礼拝の時間が厳密に決まっていなため、サラートの時間に祈祷室を利用することはないと考えるのが妥当です。

サラートをを行うには、イスラム教徒一人あたりにつき約1.2m x 0.6m の度の広さであるため、祈祷室はこの人数を収容できるだけの広さがあるのが理想です。

サラートの前の小浄（ウドゥ）のための設備も必要で、これについては後述します（セクション6参照）

理想的にはイスラム教徒の男女のために、礼拝と小浄のための全く別の施設を提供する必要があります。男女が同じ祈祷室を共有する場合は、女性は通常カーテンで仕切られた男性の後ろを利用することになります。男女の人数の違いに対応するためカーテンは可動式のレールに取り付け、仕切りの位置を変えることができるようにする必要があります。女性がいない場合は、カーテンを取り外すこともできます。

このようなカーテンの仕切りは、伝統的なユダヤ教徒が女性とは別に10人の男性の定数で公に祈る場合にも使用できます。

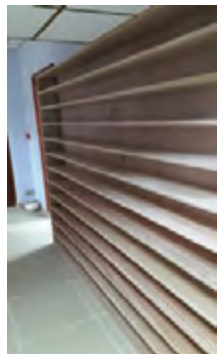
男女共同の小浄施設を設けることは全く不適切です。祈祷室が一つの場合でも、男女別の場合でも、女性のプライバシーを確保するために鍵のかかるドアの後ろに小浄室がある場合を除いて、男女別の小浄室が必要です

5.3 オリエンテーション

十字架型に建てられたキリスト教の古い教会は定められた方角を向いて建てられています。ほとんどの宗教では、祈りを捧げるべき方角は決まっていません。ユダヤ教徒は一般に、エルサレムの方角である東を向いて祈ります。

イスラム教徒は礼拝の際にカーバに向かって祈ることが義務付けられています。カーバはメッカにある古代の神殿です。

祈りの部屋そのものに特別な向きが必要なわけではありませんが、それぞれの壁がどの方向に向いているのか、東の方向とメッカに向いている壁はどちらなのかということは何らかの形で表示する必要があります。正確なメッカの方角は、祈祷室が世界や国のどこにあるかによって異なります。メッカの正確な方角を示すコンパスは、ほとんどのイスラム教の書店で購入することができます。コンパスにはメッカの方角を示す矢印が描かれています。天井に設置することができる矢印は、この方向を示す実用的な手段として認識されており、WuduMateから購入することができます。（表示などについて 5.4.8.2を参照）部屋の入り口は祈る人の前を通らずに出入りできる位置にあるのが理想的です。



5.3.1 靴の収納

ほとんどの宗教で清浄は重要なことですが、宗教によっては祈りの前に靴を脱ぐことが義務付けられている場合があります。したがって祈祷室を訪れるすべての人に、入室前に靴を脱ぐよう勧める必要があります。靴を脱ぎたくない人には他の人への配慮から、主要な祈りの場を横切って歩くことを避けるように表示をするべきでしょう。

祈祷室又は小浄所に入る前に靴を脱ぐことができる場所と、脱いだ靴を置くことができる下駄箱を設けるべきでしょう。

5.3.2 トイレの設備について

祈祷室の環境にトイレを設置することは必須ではありませんが、トイレを設置する場合にはイスラム教徒は祈る方向と同じ方向（メッカの方向）を向いてトイレを使用してはならないことに留意する必要があります。

様々な理由からイスラム教徒の男性は一般的に小便器を使用せず、座っているいは立ってプライバシーが守られる個室で排泄することを好みます。したがって職場のトイレの位置やデザインを計画するにはスタッフにイスラム教徒が多い場合は、通常より多くの個室と少ない小便器を用意し、多宗教のエリアでは小便器を完全に排除することをお勧めします。

またイスラム教を含む一部の民族では、トイレを使用した後に紙を使わず水で局部を洗うので、個室ビデを必要とすることがあります。（セクション 6.2 個人的な洗浄を参照）

5.4 祈祷室の什器・備品

5.4.1 宗教的なアイコン

ある特定の宗教信者のために宗教的なアイコンが常設されていると、他の宗教信者の気分を害し、ある特定の宗教が「所有」しているような雰囲気になりかねません。特定の宗教がアイコンの使用を特に要求している場合は、使用しないときに保管するための戸棚を設置する必要があります。理想的にはこのような戸棚が最低、つ（主要な、つ（宗教を代表するもの））であると良いでしょう。正面から見ると本棚のように見え、外側の扉を開けると内部が異なるデザインになっている以下のような戸棚もあります：

- キリスト教の祭壇をイメージした棚で、その上に十字架や聖書などキリスト教の祭具を置くようになってい、その下に棚スペースがあります。
- イスラム教のデザインやグラフィックを施し、ミニモスクのような雰囲気になります。

5.4.2 家具

多宗教の施設では、家具は必須ではありませんが、短期の訪問者が読書をしたり、単に座って瞑想したりするときに使用するために、いくつかの非公式な座席を提供することが適切です。また、宗教によっては、儀式の一環として必要なものを置くための簡単なテーブルも用意する必要があります。例えばキリスト教徒には、祭壇を示す十字架やクルシフィクスを置くと喜ばれるでしょう。

ユダヤ教徒は祈りの前、最中、祈りの後に勉強するためにテーブルを使うかもしれません。

理想的な家具は、祈りの妨げにならないよう簡単に移動できるものでなければなりません。特定の信仰を持つ人々は祈りの際に壁へ向かって祈るので、これを妨げないようにしなければなりません。ベンチの使用はできますがテーブルに座りたい人や、ひざまずくのが難しい人のために、移動可能な椅子も用意する必要があります。

ヒンズー教徒は礼拝の場に革を持ち込むことができないので、革製の家具の使用は避けるべきです。

5.4.3 床材

祈りの部屋の床材は、すべての信仰に受け入れられるように、中間色を使用する必要があります。加えて、清掃が容易であることが必要です。

5.4.4 書籍及び宗教的な読み物

本やカレンダーなどの宗教的な出版物は利用できますが、他の信仰を持つ人たちの気分を害さないように、常時見えるところに置いておくべきではありません。その代わりに、棚の上できれば戸棚の中に保管する必要があります。宣伝や広告のための資料は許可されるべきではありません。

ヒンズー教などの宗教では牛革が不快感を与えるため、革表紙の本は避けるべきです (上記 5.4.2 参照)

5.4.5 照明

祈りの場と洗面の場は、十分な明るさが必要であり、環境意識の高い今日、できるだけ省エネルギーな方法を使用します。

5.4.6 窓

窓は、祈りの部屋の採光と自然換気に適していますが、利用者はくもりガラスが使用されることを望むかもしれません。スタンドグラスは、装飾の美的魅力を高めることができますが、その主題は宗教的な意味合いを持たない中立的なものであるべきです。

5.4.7 その他

祈禱用帽子、マット、クッションなどは、不快感を与えないように戸棚にしまっておきます。

香を焚くことは、消防法に抵触する可能性があり、煙センサーを作動させる危険性があるため、許可しない方が良いでしょう。

ロウソクの使用を許可する場合は、厳重な監視及び監督を行う必要があります。適切な法律を参照し、リスク評価を実施する必要があります。理想的には、ロウソクを灯すのは一度に1, 2本にとどめ、またロウソクは「宗教に特有のもの」であってはなりません。(5.4.1参照)

5.4.8 その他の礼拝所

教会、モスク、シナゴークなど、地域の他の礼拝所の連絡先と住所がわかるようにしておきます。信仰室を使用しないときは施錠する場合は、その旨を外部に掲示するとよいでしょう。

5.4.9 表示

5.4.9.1 法定表示

禁煙」「非常口」「裸火の禁止」など、消防法などの法令に該当する表示をします。

5.4.9.2 多宗教・ウドゥルームの案内表示

多宗教施設のレイアウトに合わせて、以下のようなサインを用意することをお勧めします：



← キブラ
(方角)

6. 儀式的な洗浄

多くの宗教は清潔を重んじ、祈りや食事の前に儀式的な洗浄を行うものもあります。

キリスト教の修道士は、かつてラバトリウムと呼ばれる共同洗面所で儀式的な洗浄を行っていました。しかし、この習慣は食事の前の手洗いに取って代わられました。

礼拝を守るユダヤ人の中には、神への献身と象徴的な自己浄化の行為として、祈りの前に手を洗う儀式を行う者もいます。

6.1 ウドゥ

最も広く行われている清めの行為は、イスラム教徒がサラート（祈り）の前に行う「ウドゥ」でしょう。ウドゥは、礼拝に臨む信者を清らかな状態にすることで、神への敬意を示しています。

ウドゥの実際のやり方はイスラム教徒のグループによって異なりますが、一般的には、顔、頭、手、腕、足の洗浄が必要です。水がない場合を除き、清潔な流水を使用しなければなりません。溜め水や汚れた水に触れるとウドゥの儀式が無効になるので、どのような洗面所でもこれを防ぐ必要があります。

ウドゥには3分半ほどかかることがあるので、ウドゥを希望する人の数に応じた適切な数の洗い場を用意し、あまり行列を作らないようにする必要があります。

想像してみてください...

あなたがスーパーマーケットチェーンのまじめで勤勉な従業員であると想像してください。あなたはイスラム教徒で日常生活の中で、かなり厳しいイスラム教の教えを守ろうと努力しています。

でも、なかなか難しいです。

あなたの雇用主は同情的で、理解に努めてくれます。でも同僚に不快感を与えたり気を遣わせたりすることなく、自分の信仰と個人的な希望を満たす静かで威厳のある方法で宗教的な義務を遂行するために適切な場所を見つけることが、あなたにとってどれほど難しいことなのか雇用主はよく理解していません。

あなたは従業員トイレの60 cm くらいの高さの洗面台で足を洗わなければならないのを我慢しています。

その後は素足で床を歩かなければならず、床は不浄な水で濡れ滑りやすくなっていてゾッとします。非イスラム教徒のスタッフの前を通り、お祈りをすることが許されている倉庫エリアまで、同じ職場で働く他の人のイスラム教徒と気を引き締めて歩いていきます。雇い主の方は本当に理解を示してくれて良いのですが、これが洗面所といえるでしょうか。



洗面所ではこんな感じですか？

近くにある別の会社ではウドウと祈りのための専用施設を設置して多民族スタッフの宗教的なニーズに対応するよう、工夫を凝らしていると聞いています。

ちょっと問い合わせてみてはどうでしょう…

6.1.1. クリーンな「タヘル」ゾーンの概念

イスラム教の浄めの用語で「クリーンゾーン」とは、有機物の痕跡や悪臭など祈りの空間がサラートに使えなくなるようなもの、祈りをしている人の気分を害するものがないようにすることを目的としています。

そのため礼拝エリアの設計では、靴を履いてはいけないラインを決めることが重要です。なぜなら靴には道路の汚れの跡が残っている可能性があるからです。

このクリーンゾーンを示す「ライン」は、床材の変更、小さな段差、あるいは床にテープを貼ったラインでも良いでしょう。靴はクリーンゾーンの外に置くべきで下駄箱もこのゾーンの外に設置します。トイレは当然このゾーンの外にあるべきですが、小浄施設はこのゾーンの中にデザインすることができますし、おそらくそうあるべきです。

小浄スペースへのアクセスは、クリーンゾーンの外からも中からも可能であることが重要です。クリーンゾーン内からのアクセスの場合、祈禱室から直接、または廊下などを通して行くことができるようにすることは可能ですが、小浄施設から祈りの場に行く際に祈りの場が水で濡れないように注意することが必要です。

6.1.2 洗面所での小浄

多くの企業はイスラム教徒にとって洗足の儀式が重要であることを認識しておらず、適切な洗足施設を提供していません。このため例えば礼拝を守るイスラム教徒は、トイレにある普通の洗面台で足を洗わなければなりません。これは彼らのニーズを軽んじているだけでなく、非常に現実的で明白な健康と安全への危険を作り出しています。

解決策としては礼拝室と近接し、トイレとは完全に分離されたオーダーメイドの小浄設備を提供することです。スペースが確保できればこの方法は非常に推奨できるアプローチです。

6.1.3 水

ウドウに使用する水は、清潔な流水でなければなりません。できれば寒冷地では、あらかじめ水が常温になるように混合されたものであると良いでしょう。

6.1.4 WuduMate® (ウドウメイト)

WuduMateは、イスラム教の儀式である小浄（ウドウ）のために特別に設計されたユニークな専用洗台です。英国のスペシャリスト・ウォッシング・カンパニー Specialist Washing Company社（WuduMateの商号を使用）によってデザイン及び製造されたWuduMateは前述の要件をすべて満たしており、職場などで使用できるよう様々なデザインを用意しています。

詳細はこちらのサイトをご覧ください www.wudumate.com

6.1.5 障がい者への対応

病人や障がい者など水でウドゥをする
ことができない場合、タヤムムと呼ばれる
方法があります。タヤムムとは障がい者
や病人が清浄な砂や石等の上を指や手の
ひらで軽く叩き、その手で顔をなぞると
いうものです。清浄な砂や石がない場合
は、床や壁のタイルなどの自然のもので
代用することもあります。

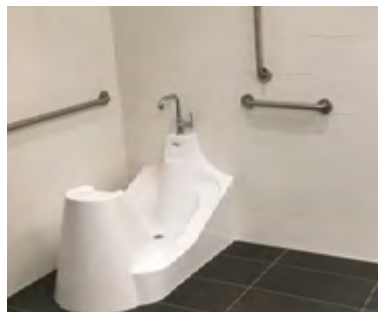
けれども、あらゆる障害に対応できる "
小浄施設"を作るのは極めて困難です。
多くの国で標準が公表されている障害者
用トイレとは異なり(例えば、英国では職
場の障害者用トイレ設備にはDOC Mとい
う標準があります)、障害者用ウドゥ設
備の提供に関する標準はほとんど存在し
ません。

英国外では、ウドゥの設備を提供するた
めの文書化された基準があるかどうかを
確認することをお勧めします。

そうでない場合は以下の方法が良いでし
ょう。(下記参照)ウドゥのためにどのよ
うな方法を検討されているとしても、障
がい者ユーザーに対応するための「最善
の努力」をしていると示すことを提案し
ます。

施設において障害者のニーズを満たすた
めに「最善の努力」がなされてきたこと
が証明できれば、障がい監査法人の審査
に合格する可能性が高くなります。

WuduMateの各モデルは、障害者用にあ
る程度設定することができ、車椅子での
アクセスをより容易にするタイプのもの
もあります：



- WuduMate モジューラー – WuduMate モジューラー は、wudu用のツールなしで 設定でき、WuduMate モジューラーが床と同じ高さに取り付けられている限り、車椅子でのアクセスが可能です。
- WuduMate クラシック – バリアフリートイレと同じように、車いすユーザー がWuduMateまで移動することが必要です。
- WuduMate コンパクト – WuduMate コンパクトツールには立ったり座ったり ったりする際に役立つようハンドルを取り付けることができ、ツールを 完全に脇に寄せて車椅子でアクセスできるようにすることもできます。
- WuduMate モバイル-WuduMate モバイルは、障がい者の元へ直接持ち運ぶこと ぶことができ、障がい者がわざわざ施設に出向くことなくウドゥを行うことができます。
- 上記の製品すべてにおいて、次のことが提案されています：
- 蛇口はセンサー式にするか、可能であればスイングレバー式にして、視力が悪い（蛇口のオンオフがはっきり見えない）、手先が不自由（関節炎など）な人が使いやすく、オンオフのハンドルが大きいと更に良いでしょう。
- 立ち座りをサポートするバリアフリーバー、車いすからWuduMate Classicのシートへの乗り降りの際に掴めるバーなど。

6.1.6 サーモスタット式混合栓（TMV）の使用について

レジオネラ症の原因菌を殺菌するには、水を60°C/140°F以上に加熱する必要がありますが、この熱湯に触れた場合、子どもは1秒、大人は5秒以内に第2度熱傷という重度ののやけどを負います。

やけどが原因で死亡するケースは多く、イギリスだけでも年間平均12人が死亡しており米国では蛇口からの熱湯が直接の原因となり、年間約2万5千人が入院し家庭内の事故だけでも34人が死亡しています。

レジオネラ対策と同時に水道水が過度に高温になるリスクを避けるため、自動サーモスタット混合弁（TMV）を使用して水温を調節する必要があります。また、不定期に使用される場合は、水温を調整するために自動調温弁（TMV）を使用することをお勧めします。定期的に「フラッシュスルー」処理を行い、レジオネラ菌がWudu器具の蛇口までの配管内に存在しないようにします。）

6.1.7 蛇口と節水について

どのようなデザインの蛇口を小浄場に設置するにしても、注ぎ口は小浄をする人にとって快適な位置にあり、水の流れは飛沫を最小限に抑えるように調整されなければなりません。浄水以外の水が小浄を行っている人やその服装にかかると、小浄の儀式が無効となることがあります。

6.1.7.1 センサー付き水栓・蛇口

センサー付き水栓は、高価で定期的なメンテナンスが必要であるにもかかわらず、公共施設では広く使用されています。センサー式水栓は、TMV（6.1.6のサーモスタット式混合栓を参照）を装備して調査された温度の湯水を吐水する必要があり、使用者が水栓に触れることなく操作することが可能です。この水栓には明らかに衛生的な利点がありますが、小浄に使用する場合は以下のような注意点があります：

- 水栓が故障し、水が流れたままになる可能性があります。
- 子供などのいたずらでセンサー部分にガムを貼り付けられるたりすると、水が出しっ放しになります。
- 既にウドウを終えても一定のサイクルの終わりまで水が出しっ放しになり無駄になります。
- 人によってウドウにかかる時間は異なるのでセンサー付き水栓の時間設定は、短すぎたり長すぎたりします

6.1.7.2 手動で操作する蛇口

手で操作する水栓はレジオネラ菌対策として水を加熱した後、やけどをする危険性があるため、一般的に商業環境では手動式水栓は推奨されません。（6.1.6参照）。手動水栓を使用する場合は、TMVを湯のバルブの方をを設置する必要があります。

6.1.7.3 タイマー付き（「タイムディレイ」）蛇口

タイマー付き水栓は、低コストで節水できる水栓として注目されていますが、センサー水栓のように、突然、水の使用量が非常に多くなると誤動作が発生する可能性があります。タイマー付き水栓は水質が悪い場合には誤動作する可能性が高くなるので、英国の高速道路網にあるサービスエリアに行くとき洗面所にあるタイマー付き蛇口のかかなりの割合が、全く作動していないかあるいは連続的にしか作動していません。また、センサータップと同様、タイマー付き水栓の時間設定（通常約7秒）はウドウを行う人にとっては煩わしい場合があります。

6.1.7.4 単水栓

手動による温度制御がなく（ユニットにはTMVが取り付けられている）、単純な手動のオン/オフ/高速スローコントローラーであるシングル水源手動タップは、一般的に堅牢で比較的安価です。

6.1.7.5 インラインフィルター

何らかの理由で水道管に異物（ソルダリング時の溶材、石灰など）が混入すると蛇口内の可動部品が誤作動を起こし、蛇口から水が垂れたり水が止まらなかつたりすることがあるため、どの蛇口（特にタイマー付きタイプの蛇口）を使う場合でも、インライン浄水器の設置を推奨します。

6.1.7.6 節水について

6.1.7.6.1 エアレーター

蛇口にエアレーターを取り付けると水栓からの水の流れ（層流または乱流）をコントロールでき、水しぶきを減らすのに役立ちますし、水量の制限にもなります (i) 水しぶきを減らすのに役立ちます ii) 水の節約になります。
(www.neoperl.net参照)

6.1.8 床

水などにより濡れる可能性のある小浄施設の床は、損傷を防ぐためにタイルカリノリウム張りが適していますが、滑り止めが施されていると更に望ましいです。これは国によっては法により定められている場合もありますが、そうでない場合でも滑り止めを施すことにより、事故による賠償請求などの潜在的リスクを低減することができます。

6.1.9 マット

洗った後の足を乾燥させる方法を用意し、余分な水分や細菌を祈りの場に持ち込まないようにすることは重要です。(足の乾燥 6.1.12を参照) サラートを行う際、頭を床につける必要がありますが、この時に湿気や細菌に感染したカーペットから細菌に感染する人が多いと言われており、特に高齢者は、これにより喘息などの呼吸器系疾患を引き起こす可能性があります。ウドウの後、祈りの部屋へ入る前に足を乾かすために、特別にデザインされた抗菌・防滑マットを用意するのも一つの方法です。
(www.wudumate.comをご覧ください)



異なる色のマットは、濡れた足/乾いた足の歩道を識別するためにも使用でき、濡れた水が祈りの場に入るのを防ぐのに役立ちます

例えば、赤いマットは沐浴場から足の乾燥場への濡れた足用に使用し、緑のマットは乾燥場から祈りの場への通路を示すなどの方法を取ることもできます。

6.1.10 壁

蛇口の裏側や周辺など、水がかかりやすい場所はタイル張りにするのが理想的です。これにより清掃が容易になり、カビや菌の繁殖が抑えられ水濡れを防ぐことができます。

6.1.11 乾燥設備

乾燥設備は必須ではありませんが用意することが望ましいです。ペーパータオルや熱風乾燥機など衛生的に使用できるもので、手や腕、顔にも使用できるものが理想的です。

可能であれば、足も乾燥させて(以下 6.1.12 足の乾燥を参照) 礼拝堂への水の浸入を防ぐと良いでしょう。(6.1.9の祈祷室のマットを参照)

6.1.12 足の乾燥

自動のフットドライヤーはWuduMate (www.wudumate.com) が提供するものなど、ますます人気が高まっています。カラーフロアマットと組み合わせて使用すれば、使用後に濡れた床を歩かずに礼拝堂に誘導できます。(6.1.9祈祷室のマットを参照)

6.1.13 廃棄物の処理

ペーパータオルを使用する場合は、その廃棄のための容器を用意します。

6.1.14 石けん

石鹸は、使いたい人が使えるようにすると良いでしょう。他の公共の場と同様、石鹸は衛生的観点から、あるいは石鹸のこぼれなどによる転倒の危険を取り除くために、自動ソープディスペンサーを使用することが理想的です。多くの石鹸には動物性脂肪が含まれているため、特定のハラール石鹸を調達する必要があります。

(www.wudumate.comをご覧ください)

6.2 トイレ後の洗浄

宗教によっては、トイレの後に局部を洗う必要がありますが、ウォシュレットなどがほとんどない外出先でそれを実現するのは難しいです。

6.2.1 ビデ

家庭で使用される個人用の洗浄器具といえばビデが一般的ですが、ビデは個人用であるためプライベートな空間に設置する必要があり、商業環境では現実的でなくコスト効率も高くありません。職場に設置する場合でも、ビデとトイレは隣り合わせに設置されることが多く、プライバシーを確保するためには鍵付きのドアも設置する必要があります。これは商業施設や公共施設の環境では、コスト効率が低くなります。

6.2.2 職場での個人的な洗浄について

外出先で個人的な洗浄をするために、ある宗教では、ありあわせの容器(コップやペットボトルなど)に水を入れてトイレの個室に持って行き、個人的な洗浄をすることがあります。使い捨てのプラスチック製のペットボトルを使用することは環境上の問題になり、使用後に容器を返却する場合は(コップを社員食堂に戻すなど)、衛生上の問題が生じる可能性があります。

また、トイレで空き瓶を使用する場合、瓶などが倒れて水がこぼれたり、滑りやすくなったりする可能性があります。商業環境での個人的な洗浄には、

以下のような他の選択肢も考えられます

6.2.2.1 ドウシズ

イスラム圏の多くの国では、公衆トイレの後ろにダッチと呼ばれるハンドシャワーを設置する習慣があり、トイレ使用後にビデのように水で局部を洗うことができます。公共の場に設置するとハンドシャワー部分が自宅用に盗まれる可能性があり、また、気を付けて使用しないと、水がこぼれて床が滑りやすくなる危険性があることがデメリットです。

さらに、ほとんどのハンドシャワーは圧力がかかったまま、つまり元栓が閉められていない状態で放置されると水漏れが起こったりします。これを解消するためには使用前・使用後に各トイレにアイソレーションバルブを設置することを推奨します。ユーザーが使用後にこれをオフにしなければ、各シャワーに使用後に自動的に水をオフにするタイマー付きの水栓を設置することをお勧めします。またシャワーの近辺に排水口を設置すると良いでしょう。

6.2.2.2 ビデトイレ

ウォシュレットは、元々は医療用として開発されたもので、複雑な構造であるため、高価なものが多く、主に家庭で使用されています。(www.toto.comを参照)

6.2.2.3 一体型ビデ

従来型の洋式便器で、便器背面のリム下に手元操作のビデを設置したwudumateのようなタイプが人気を集めています。(www.WuduMate.com参照、以下同様)。なお、逆流防止装置の設置が必要な場合がありますので、地域の建築法規を確認する必要があります。



6.2.2.4 パーソナルビデ

ウォシュレットやビデトイレの設置やメンテナンスが困難な環境では、施設管理者はスタッフや訪問者のために個人用ビデを用意することを検討してみてください。はいかがでしょうか。



The WuduMate Personalは、低価格で再利用可能なプラスチック製の容器で、個人用ビデとして使用するために特別に設計されており、他に適当な器具がない場合優れた解決策となります。

ウドゥメイト・パーソナルは便利に折りたたむことができます。そのため、ペットボトルなどの使い捨て容器を使用する必要はありません。(参考wudumate.com)

6.2.2.5 パーソナルビデディスペンサー

雇用主が従業員のビデの必要性をより理解するようになるにつれ、簡単に使用できるビデ設備を購入することにより長期的には濡れた床の清掃を減らすを減らす、また、濡れた床による転倒の危険などを回避するなどにつながり、これは総合的なコストカットにつながるのではないかという考え方の人も増えています。

パーソナル・ビデの販売機を適切な場所に設置し、有料または「無料」で提供することは適切なオプションであると言えるのではないのでしょうか。



7. 外部イベントでの祈りとウドウの設備

セミナーや結婚式、展示会などのイスラム教のイベントは、一時的に高い需要が発生する可能性があるため、適切な礼拝施設や小浄施設などを備えることは難しいかもしれません。

最も対応しやすいのは祈りをする場で、このガイドに記載されている礼拝室に関する推奨事項のすべてではないにしても、そのほとんどに従うことができるのではないのでしょうか。

また、施設の計画や手配に役立つガイドとして、「イベント・施設管理者のためのイスラム教の礼拝室に関するガイドランス」があります。以下のリンク先でご覧になれます：

<https://sites.google.com/euroqualityfoundation.org/cravenarmsic-org/islam/guidance-for-prayer-provision>

礼拝のためのスペースを確保することは、商業環境では比較的容易であり、イベント期間中、礼拝のための専用スペースとして予約しておくこともできます。また、必要な場合は、サラートのために特別にスペースを確保したり、椅子を移動させたりすることができます。

礼拝前の小浄（ウドウ）のための適切な設備を整えることは、比較的困難でしょう。なぜならウドウに適した水道がある既存のスペースは殆どの場合には洗面所だけだからです。この場合、訪問者は洗面台で足を洗うこととなりますが、これはお勧めできませんし、健康・安全の面からも良いことではありません。

WuduMate社が提供する仮設のウドウもあります。（Eメールアドレス：info@wudumate.com）このスペシャリストの会社は以下のようなサービスを行っています。礼拝前に必要なもう一つの洗浄である「イステインジャー」を行うためにトイレで使用できる個人用のビデを提供することもできます。（参照 6.2.2.4）。

7.1 携帯用ウドウ設備

祈禱の場に近い場所でウドウを行うために、水道や排水設備に簡単にアクセスすることができない場合、祈禱場所に仮設のウドウ器具を持ち込むことが可能です。WuduMate Mobile（参考：www.wudumate.com）は、以下のような仕様での製品です。浄水と排水の貯水槽が一体化した構造になっているので、沐浴に便利な場所に簡単に運んで使用することができます。



代表的な用途は以下の通りです:-

- オフィス - 使用頻度の低い祈祷室の場所が使用可能な小浄施設から遠い場合、WuduMate Mobile は、洗面所で注水し、祈りの場所の近くに持ち運んで礼拝前に手足を浄めるのに使用することができます。使用後は洗面所などに運び排水できます。
- 病院/老人ホーム - 患者や入居者がウドゥ施設に簡単に行くことができない場合、ウドゥメイトモバイルを患者のところまで運ぶことができます。
- ホテル - イスラム教徒の来客が少なく各部屋にウドゥの設備が必要ではない場合WuduMate Mobile を必要に応じてイスラム教徒が利用している部屋へ運ぶことができます。
- 刑務所及び警察署など - 囚人をウドゥ施設に連れて行くのが不便/安全でない場合、WuduMate Mobile を囚人のところに持っていくことができます。
- 展示会・イベント-臨時のウドゥ設備が必要な場合。



8. 祈祷室の利用について

8.1 法律

公共の場と同様に祈祷室とそれに付随する小浄設備は、その地域の慣習に則るべきであり、現行の地域の法令を遵守しなければなりません

利用者は服装や一般的な行動などにおいて、常に他人の気持ちを尊重する必要があります。

公共の場での喫煙が違法とされている国では、喫煙を禁止しなければなりません。

アルコールや違法薬物の摂取は厳禁とします。

8.2 メンテナンスと清掃

すべての宗教は清浄を尊ぶので祈祷室と小浄施設は常に清潔に保ち、臭いがないようにすることが理想です。

宗教によっては祈りの際に匂いが不快になることがあるので、掃除用具を選ぶ際には、無臭のもの、または不快感を与えない、宗教に関係ないものを選ぶように注意しなければなりません。(例：沈香は一般的にイスラム教徒に好まれますが、他の宗教の信者には不快感を与える可能性があります。)

強力で効率的な脱臭力があり臭いのもととなる細菌を殺菌でき、さらにコロナウイルスを除去できることが証明されているので小浄施設での使用に理想的です。(www.wudumate.comのサイトでBiozoneという商品名で販売しています)

小浄施設で使用する石鹼や香料は、動物性食品やアルコールを含まないものが理想的です。石鹼は衛生的観念からディスペンサーで提供されることが望ましいです。祈祷部屋は十分に換気されるべきであり、あらゆる種類の食べ物や飲み物は控えなければなりません。

多宗教の部屋では、宣伝や広告の類は一切排除しなければなりません。

8.3 開館時間

多宗教ルームは、いつでも誰でも利用できることが理想ですが、その主な目的のためにのみ利用されるべきで、宗教的信念の追求とは関係のない会合や勉強のためなどのその他の目的の利用は推奨されないどころか、禁止されるべきです。

しかし、セキュリティや実際上の理由から多宗教施設は24時間365日オープンすることは不可能であり、場所によっては使用しないときは施錠する必要がある場合もあります。

9. 多宗教ルームの計画及び企画

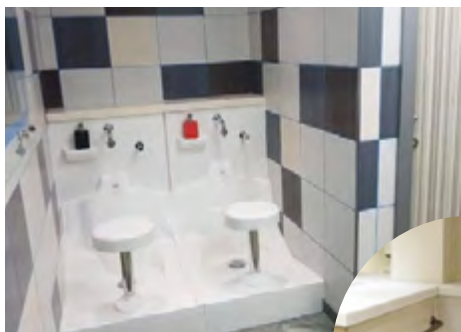
私たちは、多宗教ルームの計画が本書『多様性の問題、多宗教ルームデザインのベストプラクティスへのWuduMateのガイド』によって促進されることを望んでいます。

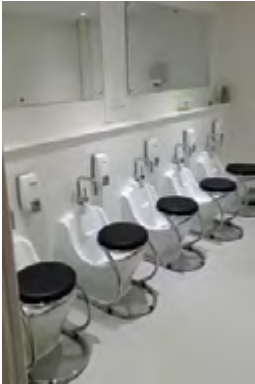
このガイドは、www.wudumate.comのカタログに記載された商品情報などにより補完することができます。WuduMate社からinfo@wudumate.comで更に詳しい情報やアドバイスが得られます。

WuduMateは多くの商業プロジェクトにアドバイスと付随する小浄施設用品を提供してきましたが、これまでの経験から多宗教施設の設計と建設のプロジェクトにはイスラム教徒の男性・女性両方に参加してもらい、その意見を聞くことが重要だということです。

他のすべての教訓よりも一つだけ学んだことがあるとすれば、それは多宗教施設の設計と建設にイスラム教徒のスタッフを巻き込み、このプロセスに男性と女性の両方を含んでいることを確認することです。これは、人事部や電気技師、配管工、その他の請負業者などの他の関係者を含む小さな委員会を形成することによって、外交的に行うことができます。

10. 施工例











WuduMate®

WuduMateは、家庭、職場、モスク
旅行先で安全、快適、正式なウドゥを
行うためのユニークで費用対効果の
高い製品を提供します。

www.wudumate.com
info@wudumate.com
+44 1784 748080 GMT
+1 513 815 3070 PACIFIC TIME ZONE

   WuduMateUK

WuduMate, PO Box 541,
Egham, Surrey, TW20 0WN,
United Kingdom